

## 2025年度第2回中京競馬特別レース名解説

### <第1日>

#### ○ 伊良湖特別

伊良湖（いらご）は、愛知県田原市、渥美半島の先端に位置する町。伊良湖岬周辺は、1月上旬から3月下旬まで咲く菜の花の名所として有名。同岬と三重県鳥羽市の神島との境の海峡は、伊良湖水道と呼ばれ、古くは潮流が速く暗礁もあるため航海の難所として知られていた。なお、伊良湖に湖はなく、古来の地名「いらご」に「湖」の漢字を当てたものと言われている。

#### ○ 恋路ヶ浜特別

恋路ヶ浜（こいじがはま）は、渥美半島の伊良湖岬灯台付近から日出の石門（ひのでのせきもん）までの約1kmにわたる白浜の海岸。高貴な男女が恋に落ちて都を追われ、この地に逃れてきたものの、好奇の目に耐えかねて男性は裏浜の弁財ヶ浜に、女性は岬の恋路ヶ浜に別れて住んでいた。二人はやがて病に倒れ、世間を恨みながら亡くなり、女性の心は女貝に、男性の心はミル貝になったという悲恋の伝説がある。日本の渚100選に選ばれており、恋人の聖地としても有名。

#### ○ 中京スポーツ杯

中京スポーツは、東京スポーツ新聞社の中部支社から発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

### <第2日>

#### ○ 岡崎特別

岡崎（おかざき）は、愛知県中南部の市。矢作川とその支流である乙川の流域に位置し、東海道の宿駅として発展した。徳川氏ゆかりの地で、名産である八丁味噌は、家康の出生地とされる岡崎城から西へ八丁（約870m）の集落で醸造されることからその名がついたといわれている。

#### ○ 昇竜ステークス

昇竜（しょうりゅう）は、空に昇っていく竜のこと。勢いがよいことの例えに用いられる。

## ○ 東海テレビ杯金鯨賞（GⅡ）

本競走は、1965年に創設された重賞競走。グレード制の導入後はGⅢで実施されていたが、1996年にGⅡに格上げされた。それに伴い、現行の芝2000mで実施されるようになった。創設時は春季、2012年に秋季、2017年からは再び春季に実施されている。なお、第1着馬には同年の『大阪杯』への優先出走権が与えられる。

競走名は、名古屋城のシンボルである「金の鯨（しゃちほこ）」に由来する。

東海テレビは、愛知県名古屋市に本社を置く放送局。1958年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

## <第3日>

### ○ 金山特別

金山（かなやま）は、名古屋市中区と熱田区との境の地区。主要幹線を含む多くの路線が乗り入れ、市内交通の要衝となっている金山総合駅を中心に、多くの商業施設や飲食店が立ち並ぶ。

### ○ 熱田特別

熱田（あつた）は、名古屋市南部の区。熱田神宮の門前町として発展した。江戸時代には宮宿と呼ばれ、東海道最大の宿場町として栄えた。熱田神宮は熱田大神を祭神とし、神体は三種の神器の一つである草薙神剣（くさなぎのみつるぎ）。大都会の中にありながら、19万㎡もの敷地には樹木が生い茂り、市民のオアシスとして親しまれている。

### ○ 中日スポーツ賞ファルコンステークス（GⅢ）

本競走は、1987年に『中日スポーツ賞4歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。創設当初は芝1800mで実施されていたが、1996年に距離が1200mに短縮され、2001年に現在の名称となった。その後、重賞競走体系の見直しに伴い、2006年には実施時期が6月から3月へと移された。また、2012年には距離が1400mに延伸された。

ファルコン（Falcon）は、ハヤブサを意味する英語。

中日スポーツは、中日新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

## <第4日>

### ○ フローラルウォーク賞

フローラルウォーク（花の遊歩道）は、名鉄名古屋本線中京競馬場前駅から中京競馬場までを結ぶ屋根付きの通路の愛称。上屋は四季折々の花で彩られている。2005年に名古屋競馬株式会社の施工により完成したもので、雨の日も濡れることなく駅と競馬場を往復することができる。

### ○ 弥富特別

弥富（やとみ）は、愛知県西部の市。名古屋市の西側20km圏内に位置し、鉄道、道路の利便性を背景に、市北部を中心に衛星都市として住宅開発が進んでいる。日本を代表する金魚のブランドである弥富金魚が有名。

### ○ 農林水産省賞典愛知杯（GⅢ）

本競走は、1963年に創設された重賞競走。1972年に父内国産馬限定競走、2004年から牝馬限定競走として実施されている。なお、2025年から実施時期が1月から3月に移設され、『京都牝馬ステークス』の実施距離である芝1400mを引き継ぐこととなった。

## <第5日>

### ○ 矢作川特別

矢作川（やはぎがわ）は、木曾山脈南部に源を發し、愛知・岐阜県境の山間部を流れて三河湾に注ぐ延長118kmの川。豊田市内で明治用水に取水されるほか、西三河地域の水道用水や工業用水に利用され、中京工業地帯の重要な水資源となっている。

### ○ 熊野特別

熊野（くまの）は、三重県南部の熊野灘に面する市。吉野熊野国立公園内に位置し、地域は豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。2004年には、紀伊半島南部にある熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）と伊勢や大阪、和歌山、高野および吉野とを結ぶ熊野古道が、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

## ○ 豊橋ステークス

豊橋（とよはし）は、愛知県南東部の市。豊川下流南岸に位置する。松平氏の城下町、東海道五十三次の吉田宿、二川宿として発展した。また、遠州灘沿いの表浜海岸はアカウミガメの産卵場所として知られる。西部の三河港は、国内外の自動車メーカーの輸出入拠点となっており、特に輸入車については、台数、金額とも日本一を誇り、輸入車の2台に1台は三河港から陸揚げされたものと言われている。新たなご当地グルメとして、ごはんの上にとろろ、カレーうどんを重ね、豊橋産のうずら卵を添えた「豊橋カレーうどん」が知られている。

## <第6日>

### ○ 大寒桜賞

大寒桜（おおかんざくら）は、バラ科サクラ属の落葉高木。花は半開状で下を向いて咲く。競走名は、2012年の中京競馬場グランドオープンにあたり、中京馬主協会より3・4コーナーのコース外周沿いに大寒桜が寄贈されたことを記念して名付けられた。

### ○ 伊勢ステークス

伊勢（いせ）は、三重県中東部にある市。古くから「お伊勢参り」の参詣者が多く訪れた伊勢神宮の鳥居前町として発展してきた。伊勢神宮は天照大御神（あまてらすおおみかみ）を祭神とする内宮（ないくう）と、豊受大御神（とようけのおおみかみ）を祭神とする外宮（げくう）をはじめとする125の宮社で構成される。

### ○ 高松宮記念（G I）

本競走は、1967年に創設された『中京大賞典』を前身とする重賞競走。1971年に高松宮殿下から優勝杯を賜ったのを機に『高松宮杯』に改称された。以来、芝2000mの別定重量戦で実施されていたが、1996年に距離が1200mに短縮されるとともに、G IIからG Iに格上げされ、中京競馬場初のG I競走となった。また、1998年には競走名が『高松宮記念』に変更され、2000年には実施時期が5月から3月下旬へと移された。春の古馬短距離路線の頂点を決める競走であるとともに、春のG Iシリーズの始まりを告げる一戦となっている。

### ○ 鈴鹿特別

鈴鹿（すずか）は、三重県北部の市。古くは伊勢国府、国分寺が置かれた。西部には、日本初の国際レーシングコースである鈴鹿サーキットがあり、自動車レース最高峰のF1日本グランプリやオートレースの鈴鹿8時間耐久ロードレースなどが開催される。